

市中感染型 MRSA によると考えられた肺膿瘍、胸壁膿瘍、腸腰筋膿瘍の 1 例

¹岩手県立中部病院 呼吸器科

○星 進悦¹

【はじめに】菌血症性ショックを経験するも MRSA の病原性は低いものと認識していたが、今回市中感染型 MRSA によると考えられた肺膿瘍、胸壁膿瘍、腸腰筋膿瘍の 1 例を経験したので報告する。また、当院で検出された MRSA の薬剤感受性パターンから病原性の高い市中感染型 MRSA が判別できるかどうか検討したので報告する。【症例】症例は 45 歳、男性、左肺パンコスト腫瘍が疑われ紹介された。喀痰培養で MRSA が検出された。その後、NSAIDs の副作用、多発性出血性消化性潰瘍と急性腎障害で緊急入院となった。次第に左鎖骨部が腫張し、右肩痛・運動障害、左大腿部痛を訴えるようになった。左肺尖部陰影は縮小し、第 1 肋骨破壊を伴った胸壁腫瘍が増大し、右肩も腫張し炎症性浸出液を認めた。また、左大腿部は異常なもの腸腰筋膿瘍を認めた。左鎖骨下膿瘍の穿刺液から MRSA が検出された。薬剤感受性パターンは痰の MRSA と同じであった。経口剤 LVFX で治療を開始し、さらに経口剤 LZD を併用して次第に容態は軽快した。骨髄抑制が出現し TIEC に変更、経口剤 MINO にスイッチした。【方法】この 3 年間に当院で検出された MRSA は 362 検体であった。今回の患者から分離された MRSA の薬剤感受性はすべての β -ラクタム薬に耐性で、抗 MRSA 薬にはすべて感性であった。その他の抗菌薬に対しては GM(S), EM(R), CLDM(R), MINO(S), FOM(S), LVFX(S), ST(S)であった。【結果】本症例と同じ薬剤感受性パターンを示した症例は 2 例で、1 剤のみ合致しない感受性パターンを示した MRSA 検出患者は 14 例あったが、診断・治療に難渋した例はなかった。小児患者から検出されたのは 4 例のみであった。【結論・考察】MRSA 感染症において病原性の高い市中感染型の存在が明らかにされている。今回初めて市中感染型 MRSA 感染患者を経験した。さらに、当院で検出された MRSA の薬剤感受性パターンから病原性の高い MRSA 感染症を特定できるか検討したが困難であることが判明した。

Staphylococcus aureus における自動測定機器および CLSI 標準法による vancomycin の MIC の比較検討

¹高知県立幡多けんみん病院 細菌検査室、²三菱化学メディエンス、³高知医療センター 感染症科、⁴東邦大学 医学部 看護学科 感染制御学

○伊藤 隆光^{1,2}、福井 康雄³、金山 明子⁴、小林 真喆⁴

【目的】

Vancomycin (VCM) は MRSA に対し CLSI 基準において susceptible と判定される MIC を示す場合においても、その値により MRSA 菌血症などでは VCM による有効率が異なることが報告されている。そのため検査室では正確な MIC 値を報告する必要があるが、測定法により値が異なる場合がある。今回我々は、*Staphylococcus aureus* における VCM の MIC を自動測定機器および CLSI 標準法において測定し、比較検討を行った。

【対象・方法】

検査室に保存の臨床分離 *S. aureus* 144 株を対象とした。自動測定機器は Phoenix100 (BD)、CLSI 標準法は CLSI M07-A8 に準じたフローズプレート (栄研) を用いた微量液体希釈法および寒天平板希釈法にて VCM の MIC 値を測定した。

【結果】

微量液体希釈法および Phoenix による *S. aureus* 144 株に対する VCM の MIC 測定において、CLSI の感受性カテゴリーおよび ± 1 管差以内の MIC 値の一致率は 99.4% (143/144 株) であったが、MIC 値が完全に一致した株の割合は 29.2% (42/144 株) であった。また、寒天平板希釈法と Phoenix による MIC 測定では、カテゴリーおよび ± 1 管差以内の MIC 値の一致率は 100% であったが、MIC 値の完全一致率は 91.7% (132/144 株) であった。不一致例のほとんどは CLSI 標準法による VCM の MIC が $2 \mu\text{g/mL}$ に対し、Phoenix の値が $\leq 1 \mu\text{g/mL}$ を示した。

【考察】

今回検討した *S. aureus* 144 株では、Phoenix と CLSI 標準法において、VCM に対する感受性カテゴリーはほぼ一致したが、MIC 値は両法で不一致の株が確認され、特に微量液体希釈法との比較において多く認められた。そのほとんどの例において Phoenix による MIC が低値を示した。このことから、VCM の MIC 測定には自動測定機器の特性を十分に理解し、継続的な成績のモニタリングが必要であると思われる。